

造影 MRI 検査を受けられる方へ

今回実施する検査は「造影剤」という薬剤を使用して行う検査です。国際医療福祉大学病院で造影剤を用いた検査を受けられる方には、あらかじめ「造影剤を用いる検査に関する同意書」にご記入をいただいております。以下の説明をお読みになり、納得頂けましたら同意書へ署名をお願い致します。

1. 造影検査を実施できない場合について

添付文書に記載があります禁忌、原則禁忌に該当する方は、副作用の発現率が高くなるため、当院では造影検査を行いません。

また、過去3カ月以内の血清クレアチニン値が2.0ml/dl以上の場合も同様に実施できません。あらかじめご了承下さい。

【禁忌】

1. 本剤投与により重篤な副作用がみられた患者
2. 本剤の成分又はガドリニウム造影剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌】

1. 一般状態の極度に悪い患者
2. 気管支喘息のある患者 [アナフィラキシー様反応が現れることがある]
3. 重篤な腎障害のある患者
[本剤の主要排泄経路であり、排泄遅延と腎機能を悪化させる恐れがある]
4. 初回投与時に副作用がみられ追加投与を行う必要がある患者

2. 造影剤とは何か

MRI 検査による画像診断において、その情報量を増やすために画像にコントラストをつける検査薬です。通常はガドリニウム製剤を静脈内に注射します。腎機能が正常であれば、造影剤は注射後6時間で約80%が腎臓から尿として排出され、やがて全てが体外に排出されます。

3. 造影剤を使用することの利点について

静脈内に注射された造影剤は、血管を介して全身の臓器に分布します。これにより、腫瘍の良性悪性の区別、炎症の有無、血流状態などがわかり、画像診断上重要な情報が得られます。

4. 造影剤による副作用に関する危険因子について

アレルギー体質の方は副作用を生じる可能性が通常約3倍、中でも喘息の方は約10倍多いといわれています。また、腎機能が悪い方では造影剤の影響でさらに悪化することがあります。

次に該当する方は検査の前に担当者にお知らせください。

- ・今までに造影剤を使用して具合が悪くなったことがある
- ・自分及び血縁者の喘息アレルギーがある
- ・腎機能が悪い

5. 造影剤使用の危険性について

現在、より副作用の少ない造影剤が主流で、国際医療福祉大学病院でも採用していますが、それでも、副作用発生の危険性を全く無くすることはできません。軽微な副作用も含めて、約 0.5%の方に何らかの副作用が生じるといわれています。

造影剤の副作用には、検査中や直後に生じる即時性のものと、検査後、数時間から数日後に起きる遅発性のものがあります。

4-1. 即時性副作用

軽い副作用（100 人に 1～2 人の頻度）

吐き気、嘔吐、頭痛、めまい、じんましん、発疹、かゆみ、手足のむくみ など

重い副作用（10000 人に 1 人以下の頻度）

意識障害・呼吸困難・血圧低下など

ショック症状により、100 万人に 1 人の割合で死に至る報告もあります。

4-2. 遅延性副作用

稀に検査後、数時間から数日後に、倦怠感、頭痛、じんましんが出る場合があります。

6. 緊急時の対応について

5-1. 即時性副作用

検査中は、担当医あるいは看護師、診療放射線技師が注視していますので、何かあれば即時、必要な対処（処置・治療）をいたします。

5-2. 遅延性副作用

検査終了後、数時間から数日後に遅延性副作用が現れた場合は、早めに国際医療福祉大学病院までご連絡ください。時間外（夜間）休日でも日当直医が対応いたします。

7. 授乳中の方へ

造影剤は母乳中にも排泄されるため、検査後 48 時間は授乳はできません。